

奥羽クリーンテクノロジー(八戸)

環境配慮型 来月2日稼働

リサイクルセンター完成

八戸市の廃棄物処理業「奥羽クリーンテクノロジー」(笹垣岳史社長)が同市に建設を進めてきた「豊洲リサイクルセンター」が完成し、8月2日から稼働を始める。集じん対策など周辺環境や労働環境に配慮した、県内で最先端の屋内型施設。従来の産業廃棄物の保管、破碎のほか、新たに選別にも取り組むことで資源リサイクルを推進する。(白鳥遼)



【写真上】奥羽クリーンテクノロジーが整備した豊洲リサイクルセンター。八戸市【同下】周辺環境に配慮し、霧を散布する装置などを備えた

リサイクルセンターは平 0平方メートルで、廃棄物の最大 屋敷敷地面積1万1665 平方メートル、延べ床面積2333 平方メートル。保管能力は2191立方メートル。社には焼却施設を持ち、これまでは施設内で産廃の保管

と破碎を行った後に焼却していた。一方、近年の産廃受け入れ増加に伴い手狭となっており、焼却施設から約2キロの近隣にリサイクルセンターを整備した。

リサイクルセンターは建設廃材やコンクリート片、金属くず、廃プラスチックなどを中心に破碎や選別を手掛ける。屋内型であることに加え、集じん機のほか、

廃棄物運搬車の出入りにセンサーで反応する高速シャッター、霧を散布する装置も導入し、ほこりが屋外に出ないようにした。

笹垣社長は「環境負荷の低減や持続可能な地域社会の実現への下支えになりたい。見学などを通じて環境問題を考える教育の場としても活用してもらえれば」と語った。

海路で廃プラ受け入れ

奥羽クリーンテクノロジーは豊洲リサイクルセンターの整備で産業廃棄物の処理能力が向上することから、東京にある大手の廃棄物リサイクル会社と連携し、同社から廃プラスチックを中心とした廃棄物を受け入れて処理する。輸送手段は八戸港に寄港する定期コンテナ船を使った海路。8月下旬には第1便が寄港する予定だ。

この廃棄物リサイクル会社によると、廃プラを巡る背景には中国の事情がある。香港で人気が高い王林が作業を見学した。ドローンの農業散布は市や地域住民らでつくる「大

のリスク分散も念頭に、焼却処理委託先の広域化を進めている」と説明する。

一方、輸送には総合物流業「鈴与」(静岡市)の定期コンテナ船を利用する。トラックによる陸送よりも一度に大量に運べ、コストも抑えられるという。奥羽クリ

業績予想を上方修正

みち銀9月中旬

みちのく銀行は29日、2021年9月の中間連結業績予想を上方修正した。5月14日に公表した予想に比べ経常利益は8億円増の14億円、純利益は7億円増の11億円となる見込み。29日に発表した21年4～6月の第1四半期連結決算は増収増益となった。

中間業績の上方修正は、有価証券運用に関する利益が計画を上回ることに加え、取引先の信用状況が予想より悪化せず、貸し倒れに備える与信費用が計画を下回る見込みとなったため。

ンテクノロジーの笹垣社長は「廃プラはたが却されるものではなく、較的燃えにくい汚泥系物の補助燃料になる」、一廃プラ受け入れり、港湾利用や物流促進面でも地域に貢献したとしている。(白鳥

第1四半期決算で、収益は前年同期比1・増の97億3500万円、常利益は41・3%増の9600万円、純利益・0%増の9億9000万円となった。

有価証券利息配当金資金運用収益が増加し、か、経費や貸倒引当金額が減少した。本業のけを示すコア業務純益体)は4億4200万円の13億1600万円増となった。

6月末時点の総預金年同月末比769億円増の2兆2067億円、貸は430億円増の1兆37億円と、いずれも増した。(岩崎

リング輸出3万3692トン

、32億1980万円だった。両地域とも、量、金額いずれも過去2番目。

た。香港で人気が高い王林の需要に対応できたため。台湾は55トンだった。

が作業を見学した。ドローンの農業散布は市や地域住民らでつくる「大

のく」(本社青森市、速水一仁社長)に委託し、大川原棚田約32・3秒のうち稲

地元農家らにドローンについて説明をした後に、に散布面積を測量したた。